

王滝村 議会だより

平成28年
1月号



雪のない穏やかな年の瀬

27年度一般会計補正予算	3P ~ 4P
一般質問	5P ~ 7P
議会傍聴感想文他	8P ~ 9P

No.130



新年あけまして、おめでとうございます

清々しい平成28年の新年を迎え、村民の皆さま方には、ご健康で希望に満ちた新春を迎えられましたこと心からお喜び申し上げますと共に、日頃より、議会に対しまして、ご理解ご支援ご協力を賜り改めて心からお礼と感謝申し上げます。

昨年を振り返り見ると、御嶽山噴火災害の復興関連に日々追われ相当なエネルギーを費やした一年でした。

さて今日、地方分権型社会や地方創生が推進される中、自己決定、自己責任による議会運営が強く求められております。正に地方議会の本来的役割を果たす責任は益々大きくっており、議会と行政の真価が問われる時代に直面してきております。

特に、我が村は急速な人口減少が進み、少子高齢化、過疎化に歯止めがかけられない状況で、村の発展を図る上でも大きな隘路に直面しています。更に交付税含め財政基盤は年々下回ることが予想されます。御嶽山災害復興にあたっては国、県からも復興支援は受けているものの応急手当に過ぎない状況であって、村の財政力をもって解決できない課題が多く残されています。引き続き国と県からの制度資金を活用しながら早期復興に取り組み、地域経済を回復させていかなければなりません。今後、国の政策動向を注視しながら小規模自治体の独自性を生み出し、住民が安心して暮らせる村づくり、将来に希望の持てる施策展開に議員一丸となって努力して行かなくてはなりません。

また、御嶽山噴火災害から一年を経過した村の観光業は、お山「御嶽山」に頼らない山麓周辺を基盤とした新しい魅力ある村づくりに向け着々と歩み始めており、活性化に繋がる多様な事業に議会もしっかりと背中を推していきたいと思っております。

さて、毎年同じような言葉が並びますが、大切な事は村民の考え気持ちに寄り添った本質的役割を果たすことが議会に求められる事と認識しております。そういった課題を念頭に置いて今年は、議員研修を積極的に取り入れ、資質の向上、議会運営のレベルアップを図り、住民の付託に応える円滑な議会運営を心がけていきたいと思っております。

結びに、2015年の世相を一字で表す漢字が「安」に決まりました。2016年はこの一字のように「不安の年を乗り越え、安らかな一年、安心して暮らせる我がふる里、安全な村づくりの推進」、そしてこの一年が王滝村、並びに村民の皆様にとって良い年でありますようご祈念申し上げあいさつとさせていただきます。

平成二十八年一月吉日
王滝村議会議長 下出 謙介

一般会計補正予算など 9 議案を可決 歳入歳出それぞれ6,298千円を追加 一般質問には 2 氏が登壇

王滝村議会 12 月定例会は、12 月 15 日に開会し、一般会計と特別会計の補正予算、税条例の改正など 9 議案を審議し、一般会計では、6,298 千円を追加、特別会計国民健康保険では、財源補正、後期高齢者医療事業では 117 千円を追加し、同日閉会した。

一般会計における主な事業

1. 「木曽サッポロ優待券」発行支援事業の負担金追加に 1,974 千円
2. 緊急雇用創出事業の延長に 613 千円
3. 村道第 41 号線道路改良工事に伴う付帯工事の追加として 2,280 千円
4. 滝越地区管理除雪機の老朽化に伴う更新に 540 千円
5. マイナンバーに係わる自治体中間サーバー接続端末整備に 409 千円
6. 利率見直しに伴う償還金の減が 1,604 千円

その他、王滝村税条例と国民健康保険条例の一部が改正され、王滝村個人番号の利用等に関する条例が制定された。また、平成 28 年度から 32 年度までの王滝村過疎地域自立促進計画についても一部が変更された。



イベント時に配布をしている水（銀河の雫）

王滝村過疎地域自立促進計画の変更について

問（田中）産業の振興の中でのミネラルウォーター製造工場だが御嶽山噴火の風評被害対策として特定財源を使って今年度試作したものだが、事業化は 32 年度に先送りになっている。県からの交付金という財源措置があった事で事業立地の優位性などきちんとした検証が無いままに進められたのではないかと。打ち上げ花火だけで後の起業が続かなければ本来の効果に添わないのではないかと。

答（村長）この計画の元になる過疎地域特別措置法の適用期間が更に 5 年延長となるのが今回の変更の大きな理由で、計画内容は従前の事業もほとんど踏襲した上で今日的課題がある事業を盛り込んだものだ。水は愛知用水の水源地として山紫水明の王滝村のイメージから将来的には事業立地の可能性もあると考えている。

問（田中）同じく産業の振興で観光センター、田の原山荘の改築という事で後年度に 4 億 5 千万円が載っているが。

答（村長）従前からローリングしてきた事業であるが、御嶽山の噴火で条件が大きく変わっている中で田の原地区に宿泊施設が必要なのかを含めた視点で検討しなければならない。

問（田中）アウトドアスポーツ練習コースとはどんなものか。

答（村長）「アウトドアスポーツ村」ということで各種のスポーツイベントが開かれている村としてアピールしてきた。選手の側からも提案をいただいているがレースの無い間も村に滞在して良いコンディションの中で練習できるコース環境の整備を行うという趣旨だ。

問（田中）過疎地域自立促進計画自体は財務面まで配慮したものではなく、今まで踏襲してきた事業を含めて必要な事業をくまなく網羅したものであることは承知している。御嶽山の噴火災害により自然・社会条件がすっかり変わってしまった現在、第一番に優先して取り組む分野は「産業の振興」だと思う。もし起業の可能性があるなら地味でも雇用確保に直結する「ミネラルウォーター」などの雇用の場の確保対策に積極的に取り込むべきだ。

問（田中）御嶽山 8 合、9 合目の避難小屋の改修は重点事業として予算化したいと村長が先ほど行政報告で述べたが、黒澤口の女人堂から二の池さらには飛騨頂上までリンクできる他の登山道と違って王滝口は登山ルートとして当面活用できる位置条件にはない。仮に 9 合目まで立ち入り規制が緩和したとしても登山客など誘客効果はほとんど期待できないと思うが。

答（村長）黒澤口、飛騨口は施設の改修計画も具体的に打ち出されている。誘客への波及効果は期待できないとしても何か前向きに打ち出さないと規制ラインも動かない。「世界水準の滞在型観光地事業」として県費支援を受けて始めたばかりの登山道もかなり荒れている。アラミド繊維という特殊素材もあるようなので避難小屋を改修して 9 合目まで立ち入り出来るようにすることが先決だと考えている。避難誘導警報装置も必要だが電源はソーラーで対応できるのではないかと考えている。



改修が待たれる 9 合の避難小屋

問（田中）木質バイオマス関連として10億円余りの事業費が計上されている。現在予備調査の段階ということだが民間企業が何社かで発電プラントの会社を創ってとの概要説明だったが肝心の村はここにどう関わっていくのか。

答（村長）木質バイオマス利用については不明の要素も多々あり、まだほんの構想の初期段階だ。イメージの部分が多すぎて過疎計画には掲載したものの村がこのプロジェクトにどう関わるのかということも未定だ。ただ、チップ工場は色々な補助金があるので村が分担する可能性があるのかもしれない。用地にしても構想の段階を出ていないものだがいずれにしても当面、過疎計画に掲載していないことには仮に関与の必要があったとしても村では対応できなくなってしまう。

答（村おこし推進課長補佐）現在の構想としての事業は 山から材を出してチップ燃料をつくる 発電 電力利用の三つに分かれる。発電は 5 社の共同企業でプラントを立ち上げたらという構想だ。売電事業なので発電プラントには国の支援はないが、発電プラントの事業費は約 2.1 億円で半分程度を「ふるさと財団融資」を使えるのか各社で検討中と聞いている。

問（田中）ふるさと財団融資というのは初めて聞くが村がどういうスタンスで関わるのか今は詳細な資料が無いようなので後日示して欲しい。仮に補助金を使って村がチップ工場部分を受け持つにしろ壮大な計画で事業効果も非常に大きいものとなるだろうが、民間事業に自治体が絡む形態は往々にして問題化する事例も多く、後戻りできないようになりリスクを招かない様に今から慎重には慎重を期してすすめて欲しい。

答（村おこし推進課長補佐）資金についてはファンドという事も伝え聞いている。事業構想の骨子は 1 月末に出る予定だ。

答（村長）先ほど来説明したようにこの事業全体のフレームについても根幹となる構想さえ決まっていない。実現するとしても色々なパターンの組み合わせが考えられる。雇用の創出面では魅力があっても村の将来にとって莫大なりリスクの可能性が少しでもあるのなら出来ないということだ。今後関係資料など詳細を提示して説明に努めるとともに慎重に検討を進めて参りたい。



改修後の松原住宅

3. 日本版CCRCについて

問 今年4月にCCRCに関する市町村の意向調査が行われた。「推進したいか」という問いに、当村は「推進したいかどうかは今後考える」との回答で、その理由は「総合戦略、総合計画等を検討する過程において議論する見込み」ということだった。

総合戦略会議ではCCRCに関しての提案や議論はされていないが、移住者向けでなく村民向けのCCRC的なサービスを考えて以降との話は出た。今後、日本版CCRCを王滝版CCRCとして展開していく考えはないか。

答（福祉健康課長）日本版CCRCは、都会の高齢者で移住を考えている人たちに健康な時から高齢者住宅等を整備し、地域での就労や様々な地域での社会活動に積極的に参加して地域へ溶け込んでいただき、健康で活動的な生活を送ることを目指した構想である。

そして医療や介護が必要な状態になった時には地域の医療・介護サービスを受けられることが基本となっている。このような構想を王滝で展開するには、ハード面や人的確保面で難しい。

王滝村ではまず村民の生活支援として、アンケートや戦略会議の話し合いで出た高齢者の不安を取り除く必要がある。その対策としてシェアハウスのような施設を村の中心部に整備できればと考えている。この施設は一人暮らしや高齢者世帯で近所に住民がいない、また冬場の生活に不安を感じている方等、みんなで協力し見守りながら自立して生活を送れる施設と考えている。

今後、実際のニーズがどの程度か調査し財政面も含め検討していきたい。まずは村民が高齢になっても安心して生活していける体制づくりが必要である。

問 この調査は全都道府県と市町村1788団体を対象に内閣官房まち・ひと・しごと創生本部が実施したもの。まち・ひと・しごと創生本部なの

で、当村では村おこし推進課が担当となるかと思われる。ただ内容は中高年のケア付き住宅という福祉的なものである。そこで2点伺いたい。

1点目は調査に対する回答は村長の意向を踏まえたものか。2点目は福祉健康課にも関わる内容の調査であるが、福祉健康課と相談した上での回答だったか。

答（村おこし推進課長）課の担当で判断しての回答であり、福祉健康課との相談はなかった。

問 村のこれからの施策に関わることなので村長への確認または情報共有をして欲しかったし、課と課の横の連携も図っていただきたい。調査に答えた頃は、このような取り組みが必要かは総合戦略会議で議論という回答が妥当だったと思うが、8ヶ月が経ち、実際に戦略会議の子育て福祉部会でCCRC的な取り組みやサービスを必要とする声が上がっている。

それを反映しての福祉健康課長からの答弁だったと思うが、必要性は感じていても予算化されなければ事業推進は望めない。必要性を感じているのなら是非進めていただきたい。

大都市からの移住者を対象とするのではなく、今現在、村に住んでいる村民が健康なうちから村民同士で支えあって公的保険に依存しないコミュニティ作りが必要と考えるのがいいか。

答 県や市町村に都会の高齢者を押し付けるのかと猛烈な反対をした自治体もある。都会から田舎へと国レベルでのスタンスは理解できるが、受ける地方としては介護保険を地方でみることが問題。そこを考慮して担当がアンケートに答えたとしそれでよかったと思う。

村としては日本版CCRCにはとらわれずに、今後、健康で長生きするための方策として行政や地域の支援を進めていく。王滝バージョンについてソフト面も含めて考えていくべきと認識しており、方向性を出せればと思う。



滝越地区に完成した公衆トイレ

日本版 C C R C とは

C=Continuing : (コンティニューイング・継続的な)

C=Care : (ケア・保健、医療、介護を提供)

R=Retirement : (リタイメント・高齢者のための)

C=Community : (コミュニティ・共同生活体)

継続したケアを提供する高齢者のコミュニティ

基本構想

可能な限り自立を支援するために、自立して生活できる段階から支援や介護が必要な段階、さらに看取りまで同じ場所で高齢者のニーズに応じて、必要な住環境・サービスを継続して提供していくこと。

初めて議会を傍聴して

12月定例会、王滝中学校3年生の皆さんが傍聴しました。初めての議会傍聴の感想文を書いていただきました。

先日は、議会を見学させていただきありがとうございました。議会では、王滝村について様々な質疑応答が行われており、その緊張感に言葉を失いました。そして、質疑応答時に明確に考えを伝えている姿がかっこいいなと思っていました。また、議長を中心にスムーズに進んでいく議会を見て、「私もできるようになりたい」と思いました。私にとって村の議会を見学することはとても勉強になりました。本当にありがとうございました。

青島 まど華

私は初めて村の議会を傍聴し、難しいことは分からなかったですが、村長さんや役場の方々をはじめとする多くの村の方が王滝村が良い村になるように、村民が暮らしやすいむらにするために、様々な面で活動してくださっていることが分かりました。また、こういった議会を傍聴したことで、今まで以上に政治に興味を持つことができました。このことは、これから大人になっていく私にとって良い経験となりました。ありがとうございました。

栗空 実穂



緊張の面もちの中学3年生



議場の様子

王滝村の村議会を初めて見ました。たくさんの役職があって驚きました。一般質問もあり、今村で進めていることへの質疑があり、それを各役職が担当していて、どの課題がどこの担当なのかというのは複雑だなと思いました。村議会は学校の生徒総会とは全く違い活発で驚きました。村内での問題点や企画はこういった形で決まっているんだなと学びました。自分たちもこれから王滝村が活発になるように協力をしたいです。

下出 渉

初めて議会を傍聴してみて、村がどのようなことをしているのか、どんなことを計画しているかなどを知るのは大事なことだなと思ったので議会に興味を持つことができました。また、質疑応答では、活発な議論を見ることができ、とても勉強になりました。傍聴することは、最初はつまらないと思っていましたが、見て聴いていると、とてもおもしろく、次回もまた見たいくなりました。傍聴させていただきありがとうございました。

下村 亮也

先日、村役場へ行き村の議員の方々が話し合っているところを見させてもらいました。議会を見るのは初めてで、役場の方がどのようなことをしているのか分かりました。聞いてると、聞き慣れていない言葉が多く、何を話しているのか分からないところもありましたが、たまに、最近の社会の授業で習った言葉が出てきたりして勉強になりました。これからの王滝のことを考える上で大切なことを学べました。ありがとうございました。

巾 こと美

先日役場で行われた村議会を見学に行きました。私たちは現在、社会の授業で地方公共団体の勉強をしています。しかし、実際に見学したことがなかったため、知らないことばかりでした。そして、今回見学させていただき、村議会の様子から多くのことを学ばさせていただきました。そんな様子から私は、改めて「自治」の大切を感じました。私もこれから、今回学んだことを生かし、村のために行動できる大人になりたいと思います。

藤本 優佳

平成 27 年木曽広域連合議会第 4 回定例会（報告）

木曽広域連合議会第 4 回定例会が木曽文化公園会議室において開催され、広域連合が提出した、専決処分の承認 1 件・一部条例改正 2 件・平成 27 年度補正予算 2 会計がいずれも原案どおり可決された。

【可決された議案】

承認第 7 号 専決処分の承認を求めることについて
* 被用者年金制度の一元化等を図る為の厚生年金保険法等の一部改正する法律の施行により共済年金が厚生年金に統一されることに伴うものの改正。

議案第 20 号 木曽広域連合分担金条例の一部改正について

* 統合ごみ処理施設の事業が具体的に動き出したことから、連合規約に基づき、施設整備に係る分担金・負担割合を木曽広域連合分担金条例に追加し改正するもの、分担金、負担割合として（平均割 20％）・（人口割 80％）施行日を 27 年 12 月 1 日とする。

議案第 21 号 木曽広域連合情報公開及び個人情報保護に関する条例の一部改正について

* 個人情報（マイナンバー）制度に伴う改正

議案第 22 号 平成 27 年度木曽広域連合一般会計補正予算（5 号）

* 補正額 6,204 千円

補正後の予算総額 2,942,793 千円とする

（主な内容）

収入関係→ 分担金は主に標準報酬制移行に伴う共済費の増で全体の 7,714 千円の増、木曽寮分担金で利用者変動による 2,026 千円の増

木曽寮の措置費負担金で利用者の変動による 3,623 千円の減

歳出関係→ 人件費標準報酬制移行に伴う共済費の補正 4,088 千円・議会関係経済産業常任委員会視察費用 102 千円・消防費共済費 4,288 千円、消防学校派遣職員旅費 1,051 千円を計上した。

議案第 23 号 平成 27 年度木曽広域連合介護保険特別会計補正予算（3 号）

* 補正額 702 千円

補正後の予算総額 4,120,899 千円とする

（主な内容）番号制度対応システム改修（接続費用分）702 千円の計上

【全員協議会】

（協議事項）

（1）新ごみ処理施設建設について

* 8 月 10 日の臨時議会にて債務負担行為 27 億 7 千 7 百 5 十 万 円 議 決 さ れ 、 来 年 2 月 の 議 会 に て 改 め て 財 源 試 算の上、議決後に契約、事業着手の運びとなる。

* ごみの減量化について 6 町村引き続き減量対策に努めていただきたい。

（2）介護保険料の滞納対策及び不納欠損について

* 現在、滞納分の介護保険料については、督促及び滞納対策を実施している。

また、時効完成分の保険料については、本人死亡や行方不明などにより回収不納となったものについては不納欠損としたい。

（3）木曽地区災害時医療救護訓練について

* 今回は、実施期間 9 月 13 日に大桑村の総合防災訓練と併せて実施することで、地域住民の参加による効果的な訓練の実施、参加者住民及び関係機関職員など 250 人。

（4）委員会委員の選任及び議会運営委員の選任について

* 平成 27 年 11 月 30 日で任期満了となることを受け、各常任委員会の選任を行った結果、委員全員の留任とし、その旨の変更申し出があった場合は閉会中に置いて議長が指名することができる委員会条例に基づいて行う事とした。



建替えが予定されているクリーンセンター

請願と陳情

12月定例会で審議された請願・陳情等の採択・不採択状況は下記のとおりです。

- 「私立高校に対する公費助成をお願いする陳情書」（採択）
- 「介護従事者の処遇改善及び人員配置基準の改善を求める陳情書」（採択）

以上陳情2件と要請1件の計3件を採択し、関係機関へ意見書を提出した。



凍らない自然湖（28年1月4日撮影）

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

さて今年は例年になく暖かい日が続いております。昨年は大雪に悩まされた冬でしたが、一転今年はほとんど雪も降らず、麓で暮らす者にとってはありがたい限りです。

一方全国各地のスキー場はこの雪不足で厳しいシーズンを迎えております。おんたけ2240も未だ全コースオープンには至っておりません。加えて、御嶽山噴火の影響も心配されましたが、年末年始、大勢のお客様で賑わっていました。

そうはいつてもこのまま雪が降らなければ、観光業にも影響を及ぼしかねません。スキー場にとっては一刻も早い恵みの雪が降って欲しいものです。

（広）

議会日誌

10月

- 3日 翔岳祭・小中合同音楽会（小中学校）
- 4日 「長寿を祝う会」（村公民館）
- 7日～8日 町村監査委員全国研修会（東京都）
- 10日 保育園運動会
- 14日 御嶽海後援会設立総会（塩尻市）
- 19日 郡議長会陳情活動
（飯田国道事務所・中部地方整備局）
- 20日 木曽南部土砂防災ネットワーク議員連盟
総会（大桑村）
- 25日 第5回おんたけ湖ハーフマラソン
- 26日 例月出納検査（9月分）
- 27日 県町村議長会第21回定期総会（長野市）
- 28日 愛知県水道南・北部ブロック協水源
地表敬訪問・交流会

11月

- 4日 大府市議会市民クラブ来村
- 5日 愛知中部水道企業団交流会（木曽町日義）
- 6日 市民タイムス木曽版発刊10周年
記念式典（木曽町）
- 9日 松塩筑木曽老人福祉施設組合議会
11月定例会（塩尻市）
- 11日 第59回町村議会議長全国大会（東京都）
- " 郡議員総会決議事項要望活動
- 13日 全国過疎地域自立促進連盟総会（東京都）
- " 木曽広域連合議会福祉環境常任委員会
（木曽町日義）
- 18日 平成27年度中部国道協会総会（東京都）
- 19日 気象庁火山課要請活動（東京都）
- 20日 木曽広域連合議会運営委員会
総務常任委員会（木曽町日義）
- 25日 例月出納検査（10月分）
- 30日 議会運営委員会
- " 木曽広域連合議会11月定例会
全員協議会・議運（木曽町日義）

12月

- 4日 スキー場安全祈願祭（2240スキー場）
- 8日 全員協議会
- 15日 議会12月定例会開会・閉会
- 19日 木曽郡町村議会議長会（木曽町）
- 24日 例月出納検査（11月分）

1月

- 12日 王滝村消防団出初式
- 15日 議会だより130号発行